

令和4年度 大田区立入新井第五小学校 自己評価 報告書

○ 本校の概要 大田区立入新井第五小学校

・学校規模等…本年度は開校から90年目にあたる。児童数387名(7月1日)、学級数13学級(第3学年…3学級 1,2,4,5,6学年…2学級)、教職員数19名(管理職2名 学級担任13名 専科4名)
 ・学校の特徴…本校の校風は穏やかで、これは、各町会、卒業生、保護者等、古くから本校にかかわりのある人々の温かな変えによるところが大きい。また、教育活動への支援として、スクールサポート(グリーンサポーター)や図書ボランティアなどの常時活動や、夏休みやわくわくスクール等の取組が年々充実している。(昨年度はコロナウイルス感染症対策のため中止)児童は何事にも素直な気持ちで向かうことができる。児童は、学年の壁を超えて交流(たてわり班等)するなど、豊かなかわり合いが見られる。
 ・本校の取組…自分の気持ちや思いをしっかりと伝えられる児童の育成に取り組んでいる。今年度も特別活動を重点に研究を進めて、12月9日に研究発表会を行う。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	目標に対する成果指標	
ブラン1 未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にかなやかに対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々のコミュニケーション能力の育成等を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	保護者アンケートより「学校は左記に示された各取組内容を実践している。」に対して、肯定的な回答の割合	4:90%以上 3:80%以上 2:70%以上 1:70%未満
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おたのみのづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。		
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4:全教員が週1回以上活用した。 3:80%以上の正規教員が週1回以上活用した。 2:60%以上の正規教員が週1回以上活用した。 1:60%未満であった。		
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。		
ブラン2 学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	児童のアンケートより「授業がよくわかる。」に対して肯定的な回答の割合	4:90%以上 3:80%以上 2:70%以上 1:70%未満
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童、保護者に知らせる。	4:学期に2～3回知らせた。 3:学期毎に知らせた。 2:年度間に1回は知らせた。 1:お知らせできなかった。		
		学習補助員等による算数の補習を実施する。	4:対象児童への出席を担任が働きかけた。 3:80%以上の担任が働きかけた。 2:60%以上の担任が働きかけた。 1:60%以下の担任が働きかけた。		
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。		
ブラン3 豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	保護者アンケートより「学校は児童の困り感や悩みを職業に対して「学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童に対して組織的に対応する。」に対して肯定的な回答の割合	4:90%以上 3:80%以上 2:70%以上 1:70%未満
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4:学期に2～3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。		
		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童に対して組織的に対応する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。		
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。		
ブラン4 体力の向上と健康増進	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	児童アンケートより「運動することや、健康を保つことに興味をもっている。」に対して肯定的な回答の割合	4:90%以上 3:80%以上 2:70%以上 1:70%未満
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。		
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。		
ブラン5 魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくりたい。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	保護者アンケートより「学校は、わかる授業づくりに努力している。」に対して肯定的な回答の割合	4:90%以上 3:80%以上 2:70%以上 1:70%未満
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	4:学期に2～3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。		
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。		
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4:月1回以上行った。 3:学期に2～3回行った。 2:学期1回以上行った。 1:実施しなかった。		
ブラン6 学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4:月1回以上更新した。 3:学期に2～3回更新した。 2:学期1回以上更新した。 1:更新しなかった。	保護者アンケートより「学校は地域・保護者との協力のもと、教育活動の充実に向けて努力している。」に対して肯定的な回答の割合	4:90%以上 3:80%以上 2:70%以上 1:70%未満
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の姿等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4:毎回情報を提供した。 3:おおむね情報を提供した。 2:あまり情報を提供しなかった。 1:情報を提供しなかった。		
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実施する。	4:学期に2～3回行った。 3:学期1回以上行った。 2:年1回以上行った。 1:実施しなかった。		
研究の推進	研究の成果追究に努め、子どもの自発的・自治的態度を育てます。	文部科学省実践検証協力校・大田区教育研究推進校の研究成果を追究し、児童の自発的・自治的な活動を育成する。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	保護者アンケートより「学校は校内研究活動に努めている。」に対して肯定的な回答の割合	4:90%以上 3:80%以上 2:70%以上 1:70%未満
		学級活動・児童会活動(委員会・集会活動)、クラブ活動・学校行事の各内容を充実・発展させ、学校生活に潤いをもたせる。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。		

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
 ○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
 ○「学校関係者自己評価」「計画」「計画」「計画」は適切である。「計画」は適切である。「計画」は適切である。「計画」は適切である。